安全管理マニュアル

目次

１．　チェックリスト　・・・・・・・・・２～３
２．　延期・撤収の判断　・・・・・・・・・・・４
３．　危険生物　・・・・・・・・・・・・・４～５
４．　枯れ草・植物　・・・・・・・・・・・・・５
５．　注射器　　・・・・・・・・・・・・・・・６
６．　熱中症対策　・・・・・・・・・・・・・・６
７．　救急キット・・・・・・・・・・・・・・・７
８．　加入している傷害保険　・・・・・・７～８

～安全管理の基本原則～

① 自然の中、かつ、水辺の近くで活動するので、
事故は絶対に起きると認識の下、
安全面に十分配慮してください。

② このマニュアルを参考に、**独自の対応基準**を
事前に話し合って取り決めてください。

③ 安全管理は、**各団体の責任下**で、
行ってください。

これらを踏まえ、日頃より詳細な安全ハンドブックや講習会等を通じて、安全管理の知識やスキルの向上に努めていただくことを推奨します。

1．チェックリスト

【スタッフの確保】

☐ 安全に運営するのに必要なスタッフを確保した

☐ スタッフの配置・役割を確定した

☐ 打ち合わせをし、当日の流れを周知・共有した

【参加者への案内】

☐ 服装：以下について事前周知した

・長袖・長ズボン（危険生物や植物、生物による感染症等から身を守るため）

・足首がかくれるソックス

・踏み抜き防止加工が施された運動靴または長靴を推奨
（踵が高いものやサンダル類は厳禁）

☐ 持ち物：以下について事前周知した

・活動中に両手がふさがるような荷物はさけ、軍手、飲み物（水筒等）、季節に応じて帽子、タオル、防寒着などを用意してもらってください。

【（必須）事前・当日の確認・下見】

☐ 水位・潮位を確認し、活動予定地の安全を確認した

・荒川下流は潮の干満の影響を受け、最大約2m水位が変動します。水際で清掃活動をする場合は、事前に実施日の水位に近い日時を選んでの下見をお奨めいたします。

（活動日時の水位）

潮時情報 → SmailNetBBS 磯釣りのページ

http://www2q.biglobe.ne.jp/~ooue_h-h/tide/kanto_s.html

☐ 川へ転落する可能性がある危険個所を確認した

コンクリート護岸は滑りやすいため、転倒や転落に注意してください。
万が一のためにスローロープ（右写真）を用意すると安心です。

☐ 感染症、 PM2.5、マダニ、デング熱等への対応を決定した

（補足資料、国や自治体等の資料を参照）

※安全管理マニュアル補足資料も参考にしてください。

□　**下記の事項を確認した**

- 河川敷道路の交通量・他の活動（マラソンなど）の状況）
- 駅から集合場所へのルート
- 集合・説明場所、日陰の有無（具合の悪い人を休ませるため）
- トイレ、手洗い場の位置
- ヨシや枯れ枝等の状況（先端部が尖っています）
- ヘビやハチ（巣）、などの危険生物の有無（P5参照）
- 河川敷生活者の有無（下見時に声をかけておくと良い場合もあります）
- 干潟を活動範囲とする場合は干潟のぬかるみ具合

【安全上の準備物】

□　**下記の準備物を確認・用意した**

- 河川敷内は救急車の入構が可能です。〇〇橋の下など明確に伝えて下さい。
- 救急キット(P7参照)
- 飲料水（暑い季節）
- ブルーシート（体調がすぐれない人を休ませるため）

【当日： 参加者への注意・確認事項】

□　**下記を注意・周知した**

- 健康状態に不安のある場合は、主催者に連絡すること
- 途中帰宅する場合は主催者に連絡すること
- 注射器(P6参照)を見つけた場合の取り扱い方法
- 危険生物(P5参照)と遭遇した場合の対応方法
- 河川敷生活者（周囲のごみは拾わない）の対応方法
- 他の活動者への配慮
- その他危険な場所・危険物の存在
- 軍手着用、トング使用（注射器等の危険なごみや生物から身を守るため）
- 高速で走行する自転車への注意喚起（河川敷道路横断時の左右確認）

2．延期・撤収の判断

野外活動は、延期･撤収の判断ミス･遅れが重大事故につながります。

･大雨･台風：
小雨でも足場が滑りやすい等の危険があります。大雨になりそうな際は速やかに撤収してください。

･増水･濁流：
当日晴れていても、大雨･台風の後や上流で大雨が降っている場合は、増水･濁流など、水際での活動に危険が生じることがあります。

･熱中症が心配されるレベルの気温上昇、光化学スモッグ、寒い時期に雨が降って来た際は、中止したり、早めに切り上げたりすることをご検討ください。

･感染症、PM2.5、マダニ、デング熱等：
補足資料、国や自治体からの情報を参考にしてください。

※あらかじめ延期日を決めておき、悪天候での実施は避けてください。
※大雨や台風通過直後など、当日天気が良くても足場がぬかるむ等コンディションが悪い場合があります。

3．危険生物

■【毒蛇】マムシ･ヤマカガシ（春～秋）

荒川にはマムシ（有毒）、ヤマカガシ（有毒）、アオダイショウ（破傷風菌保持）等がいますが、区別は容易ではありません。

ヘビを見たら、**静かにその場を離れてください。**

誤って踏んだり、人間から手を出さなければ襲ってくることはまずありません。夏～秋は活発になるので注意が必要です。

草むらに入るときは、棒などで先を確認しながら進む。

噛まれたら止血し、すぐに病院で手当てを受けてください。
口で毒を吸い取るのは厳禁。

※無毒でも咬まれた場合、破傷風等に感染する恐れあり。

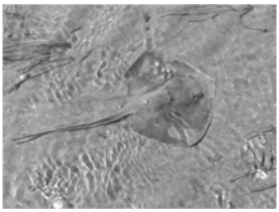
マムシ
40～70ｃｍ。**頭が三角形**で、くびはやや細く、全身**茶色で黒褐色の銭型斑点**がある。

■スズメバチ類（春から秋に見られる。秋に凶暴化）

荒川には複数種のスズメバチ類が生息しています。下見時には、茎の固い草が密に繁っているところや樹木などに巣がないかを確認してください。巣がある場合は、目印をつけ、参加者を近づかせないようにしてください。ハチは黒く動くものに襲いかかる習性があるため、黒っぽい服装は避けてください。また、香料の強い化粧品・整髪料等も避けてください。

遭遇した場合は、**振り払ったり、走って逃げたりせず、その場でしゃがみ**ましょう。振り払うことで、ハチは攻撃されたと認識し、襲ってきます。襲われた場合は、目や心臓部等急所を隠しながら姿勢を低くしてゆっくりその場を離れてください。刺されたら、患部をきれいな水で洗い、すぐに病院で手当てを受けてください。患者を走らせていけません。

■アカエイ（一年中注意が必要）



東京湾から遡上し、北区の干潟でも見られます。尾の付け根に1～2本の毒針があり、刺されると激痛が走り死に至る危険もあります。干潟水中の砂に身を隠していることが多いので、干潟を歩くときには注意し、もし刺されたら、止血し、すぐに病院で手当てを受けてください。

■枯れ草・硬い植物（ヨシなど）

特に秋から春にかけて、枯れた植物が硬くなっているため、目や鼻などに植物が刺さったり、葉先で手足が切ったりすることがあります。ごみを拾おうと思い屈んだ際に刺さるケースもあります。また、子どもは顔の高さに植物の先端がくるため、保護者等が十分に注意する必要があります。

また、刈り払った後のヨシは、切り口が尖り危険です。足元にも注意下さい。転倒時にそれらが刺さる恐れもあるので走らないようにして下さい。露出の多い服装、腕やひざが出ている服装で植物の茂った場所には入らないことをお薦めします。

５．注射器

注射器は荒川のどの場所でも高確率で見つかります。
発見した場合は、**決して触らず『荒川クリーンエイド当日報告用紙』の注射器欄に本数を明記し、「■ごみの集積場所・活動エリア図」（地図）に、発見した場所が分かるように記載し報告してください。**

インシュリン注射器はサインペンのように見えます（下写真左）。写真右のようなタイプも有るので注意してください。特に子どもに触らせないように保護者や周りの大人が注意してください。

■針が刺さった場合の対応

見つかる注射器は、薬物/医療用の可能性が考えられます。万が一針が刺さった場合は病院で検査を受けることになります。※当日中に必ず通院すること。

６．熱中症対策　※熱中症は保険対象外です

■当日、最高気温が 35 度以上（高温注意報発令）になることが予想される場合は、延期や中止、早めの終了などを検討してください。

■予防法

前日から体調を整えておき、十分な水分を持参して、のどが渇いていなくても水分補給をし、しっかりと休憩をとってください。

■対処法

軽い症状のうちに日陰の涼しい場所で安静にする。水分を取ることができれば補給させる（水、アミノ酸入飲料等を数回に分けて与える）。冷たい水でぬらしたタオルか冷却パックで、額や首筋、わきの下、内ももなど太い血管のある場所を冷やし、うちわなどで風を送る。発汗が止まり、皮膚が乾き紅潮するなどの症状があるときは、救急車を呼ぶ。けいれん、意識がもうろうとしている場合は、死亡につながる危険がある。

■低体温症にもご注意ください

冬季の河川敷は、街中よりも気温が低いことが多いので十分な防寒対策をしてください。寒い時期に雨が降り始めたら速やかに撤収してください。冬季以外にも、発汗により体温が奪われ発症することもあります。唇の色が変わる、震えが止まらないなどの症状が現れたら、体を温め、温かい飲み物を飲ませてください。但し急激な加温は厳禁です。

7．救急キット

- □ 消毒液
- □ 虫刺され薬（抗ヒスタミン）
- □ ばんそうこう（多種サイズ）
- □ 包帯・ガーゼ
- □ テープ類
- □ ティッシュペーパー、ウエットティシュ
- □ 刺抜き
- □ はさみ
- □ 虫除け
- □ 携帯用冷却パック、せんす・うちわ、凍らせた PET ボトルとタオルなど熱中症対策用品
- □ 使い捨てカイロ、毛布・サバイバルシートなど低体温症対策用品
- □ ミネラルウォーター（けがをした時やハチに刺されたとき患部を洗うのに用います）

8．荒川クリーンエイドで加入している傷害保険

※以下の補償内容で不足な場合は実施団体で他の保険に任意加入してください。

次の手順で報告してください。

① 参加者名簿の提出 （けが人の有無にかかわらず）

スタッフを含め、参加者全員のフルネームを提出してください。
≪例：荒川太郎≫

②けが人が出たら、事務局に報告

病院にかかるようなケガの場合、ケガをした方の氏名、住所、連絡先、けがの状態、現地での応急措置、搬送先の病院などの情報を速やかに報告してください。
※救急車を要請した場合は、必ず報告が必要です。

連絡先　03-3654-7240（月～金 10:00～17:30）

※当座の治療費は、ご本人が支払います。（保険会社から支払われるのはお見舞い金です。）

⇩

保険対応については、
事務局または保険会社からご本人に連絡します。

傷害保険補償内容

〇荒川クリーンエイド活動で起きた事故に限る（会場までの移動中も適用）。
〇支払額　死亡：　1,000 万円
入院：　5,000 円/1 日　発生から 180 日まで
通院：　3,000 円/1 回　発生から 180 日の間で
90 回まで
〇支払われない場合または、支払い請求に困難を要する場合
・風邪、インフルエンザ等の疾病（活動との因果関係の証明が難しい為）
・天変地異などによる災害やテロ
・明らかに本人の不注意によって起こった場合
・**熱中症は保険対象外です**

９．その他会場での留意点（メモ）

＜荒川クリーンエイドで生じた実際の事故事例＞
最近では以下のような事故が起きています。

・散歩していた犬に触ろうとして手を噛まれる
・河川敷道路を横断中、走行してきた自転車と接触し転倒する
・落ちていた注射器を拾おうとして針に刺さる　etc

←オンラインでも安全管理マニュアルを用意しています。
https://cleanaid.jp/cleanaid/safety_management